

■高校野球のケーススタディー（第6回）■

一般財団法人
兵庫県高等学校野球連盟



高校野球のケーススタディー ～こんなプレイどうなるの？～

○ 走塁妨害とフォースプレイが1つのプレイの中で起こりましたが・・・？

秋の練習試合の中で実際に生じたプレイです。

1死走者1塁で送りバントをした打球が、1塁線への小飛球となりました。1塁手は猛然とダッシュし、ダイレクトで打球を捕球しようとスライディングキャッチを試みましたが、捕球できませんでした。（このとき、バウンドした打球がフェアゾーンで1塁手のミットに触れていました。）

カバーに来ていた投手が落球したボールを拾い、2塁へ送球し1塁走者をフォースアウトにしましたが、その後、捕球できずに倒れていた1塁手と1塁に向かおうとした打者走者が衝突し、打者走者も倒れてしまいました。（打者走者は、正しく走路を走っていました。）

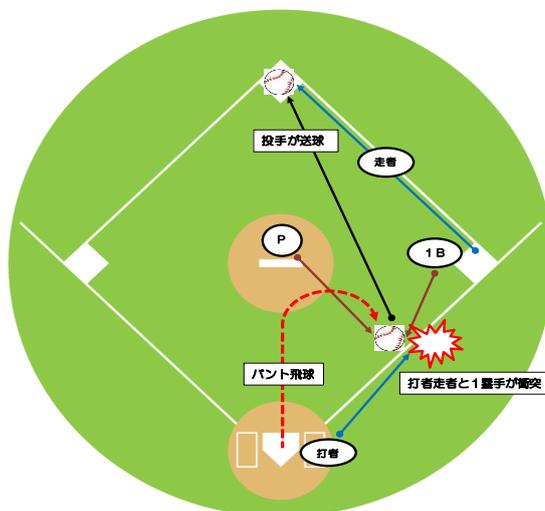
さて、このプレイ、ルール上の取扱いはどうなるのでしょうか？

ボールを持たない野手（1塁手）が、正しく走路を走っていた打者走者の走塁を妨げましたので、打者走者に対する走塁妨害が適用されます。

【規則 6.01(h)(1)】

（前略）打者走者が一塁に触れる前にその走塁を妨げられた場合には、ボールデッドとし、塁上の各走者はオブストラクションがなければ達したであろうと審判員が推定する塁まで、アウトのおそれなく進塁することが許される。

このルールの適用については、多くの方が理解されていると思います。

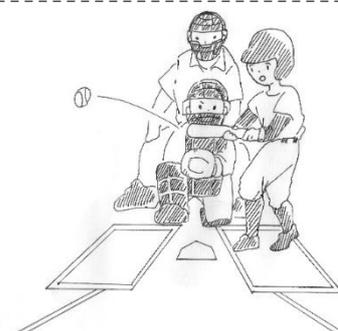


さて、1塁走者は、2塁でフォースアウトになっていますが、走塁妨害によりアウトが取り消され、1死1、2塁となるのでしょうか。

それとも、2塁でのアウトは認められ、2死1塁となるのでしょうか。

規則 6.01(h)(1)【注4】では、オブストラクション（走塁妨害）よりも、2塁でのフォースアウトが後に成立していたと審判員が判断したときには、打者走者を1塁に、1塁走者を2塁に進めることになっています。

これに反して、オブストラクション（走塁妨害）よりも2塁でのフォースアウトが先に成立していたと判断したときには、



打者走者の1塁占有を認めるだけで、1塁走者の2塁フォースアウトは取り消されません。

このケースでは、バントをした打者走者が、打球の行方を見ていて、1塁へスタートを切るのが遅くなり、打者走者が1塁手と衝突したときには、すでに2塁でのフォースアウトは成立していました。従って、2塁でのフォースアウトは認められ、2死1塁でボールデッド後の処置がとられました。

【参考】

このケースで、もし、1塁手が落球後、再びボールを取りに行こうとしていたところ、打者走者と衝突していた場合はどうなるでしょうか。

走者が、打球を処理しようとしている野手の妨げになった場合は、守備妨害が宣告され、打者走者はアウトになります。(規則 5.09(b)(3)) (打者走者が、落球したボールを取りに行こうとした投手の守備を妨害したときも同様です。)

「野手が打球を処理する」とは、野手が打球に対して守備はじめてから打球をつかんで送球し終わるまでの行為をいいます(同項【注1】)ので、落球後、ボールがすぐそばにあり、すぐさま取りに行こうとする野手を走者は避けなければなりません。

走者が正しく走路を走っていた場合でも、打球を処理しようとしている野手の妨げになったと審判員が判断したときには、走者はアウトになると規定されています。(同項【注2】)

ただし、落球の際、野手が大きくボールをはじき、すぐに拾いに行くことができない状況下では、野手の方が走者を避けなければならないことになるでしょう。

今回は、練習試合で実際に生じた珍しいプレイを紹介しましたが、その他にも打者走者が、1塁に触れる前に野手によって走塁が妨害されるケースがあります。



★試合の中でよく生じるケースを紹介しますので、参考にしてください。

《試合の中でよく生じるケース(規則 6.01(h)(1)【注4】)》

- ① 1死走者2、3塁の場面でスクイズ。打球は1塁ライン付近へのゴロとなり、打球を捕球した1塁手が本塁へ送球し、3塁走者をタッグアウト(又はセーフ)。その後、1塁へ向かっていた打者走者と1塁手が衝突した。(その間、2塁走者は3塁へ達していた。)
⇒ 3塁走者の本塁でのタッグアウトは取り消されず、2死走者1、3塁で試合を再開。
(本塁がセーフの場合は、得点1、1死1、3塁で再開)
- ② 1死満塁の場面でスクイズ。打球は1塁ライン付近へのゴロとなり、打球を捕球した1塁手が本塁へ送球し、3塁走者をフォースアウト(又はセーフ)。
その後、1塁へ向かっていた打者走者と1塁手が衝突した。(その間、他の走者はそれぞれ次塁へ達していた。)
⇒ 3塁走者の本塁でのフォースアウトは取り消されず、2死満塁で試合を再開。
(本塁がセーフの場合は、得点1、1死満塁で再開)
- ③ 1死走者1塁、打球は1塁ゴロ。打球を捕球した1塁手は1塁走者をフォースアウトにしようと2塁へ送球したが、1塁へ向かっていた打者走者と1塁へカバーに入ろうとした投手が1塁の手前で衝突した。
⇒ 審判員が守備妨害(オブストラクション)よりも2塁でのフォースアウトが先に成立していたと判断したときには、1塁走者のアウトは取り消されず、2死1塁で試合を再開。
また、2塁でのフォースアウトが後に成立していたと判断したときには、1死走者1、2塁で再開。